

平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び関連の考古学的遺跡群—

独特の展開を遂げた日本の仏教、中でも特に極楽浄土信仰を中心とする浄土思想に基づき、造営された建築・庭園及び関連遺産群

■ **顕著な普遍的価値の言明** 平泉は、12世紀日本の中央政権の支配領域と本州北部、さらにはその北方の地域との活発な交易活動を基盤としつつ、本州北部の境界領域において、仏教に基づく理想世界の実現を目指して造営された「政治・行政上の拠点」である。それは、精神的支柱を成した寺院や政治・行政上の中枢を成した居館などから成り、宗教を主軸とする独特の支配の形態として生み出された。

特に、仏堂・浄土庭園をはじめとする一群の構成資産は、6～12世紀に中国大陸から日本列島の最東端へと伝わる過程で日本に固有の自然崇拜思想とも融合しつつ独特の性質を持つものへと展開を遂げた仏教、中でも特に末法の世が近づくにつれ興隆した極楽浄土信仰を中心とする浄土思想に基づき、現世における仏国土(浄土)の表現を目的として創造された独特の事例である。

それらは、浄土思想を含む仏教の伝来・普及に伴い、寺院における建築・庭園の発展に重要な影響を与えた価値観の交流を示し、地上に現存するもののみならず、地下に遺存する考古学的遺跡も含め、建築・庭園の分野における人類の歴史の重要な段階を示す傑出した類型である。

さらに、そのような建築・庭園を創造する源泉となり、現世と来世に基づく死生観を育んだ浄土思想は、今日における平泉の宗教儀礼や民俗芸能にも確実に継承されている。

以上の理由により、「平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び関連の考古学的遺跡群—」は顕著な普遍的価値を持つ。

▼ **評価基準(ii)** 平泉の仏堂・浄土庭園群とそれらの考古学的遺跡、及び関連の遺跡群は、6世紀に中国・朝鮮半島から伝来し、日本古来の自然崇拜思想と融合しつつ、12世紀にかけて独特の性質を持つものへと展開を遂げた日本の仏教、中でも特に興隆した浄土思想に基づき、現世における仏国土(浄土)の空間的表現を目指して創造された顕著な事例である。

それらは、仏教とともに受容した伽藍造営の理念及び意匠・技術のみならず、同時に受容した外来の作庭思想と古来の水辺の祭祀場における水景の理念、意匠・技術との融合を出発点として、それに後続して成立・発展を遂げた日本独特の仏堂・浄土庭園の理念及び意匠・技術の伝播の過程を証明している。

したがって、それらは東アジア地域における建築・庭園の意匠・設計に関する人類の価値観の重要な交流を示している。

▼ **評価基準(iv)** 構成資産の中でも、仏堂及び一群の庭園は仏国土(浄土)を空間的に表現しようとした優秀な芸術作品であり、それらの考古学的遺跡も含め、世界の他地域において類例を見ることのできない12世紀日本の建築・庭園の顕著な事例である。

したがって、それらは建築・庭園の分野における人類の歴史の重要な段階を示す傑出した類型である。

▼ **評価基準(vi)** 平泉が造営される過程で重要な意義を担ったのは、日本固有の自然崇拜思想とも融合しつつ、独特の展開を遂げた日本の仏教であり、中でも末法の世が近づくにつれて興隆した極楽浄土信仰を中心とする日本の浄土思想である。それらは、12世紀における日本人の死生観を醸成する上で重要な役割を果たし、世界の他の地域において類例を見ない仏国土(浄土)を空間的に表現した建築・庭園群などの理念、意匠・形態へと直接的に反映した。さらに、それらは宗教儀礼や民俗芸能等の無形の諸要素として、今日においてもなお確実に継承されている。

したがって、平泉の仏堂・浄土庭園及び考古学的遺跡群の有形的な側面に関連する信仰、思想、伝統は、顕著な普遍的意義を持っている。

第1段階における資産構成

○特に仏国土(浄土)を表す建築・庭園の観点から、**中尊寺・毛越寺・観自在王院跡・無量光院跡**を構成資産とする。

○仏国土(浄土)の創造の観点から、建築・庭園のみならず、それらとの直接的な文脈及び空間的一体性を持つ**金鷄山・柳之御所遺跡**を構成資産とする。